

「多文化が息づくまち」

京都市が新たに策定した「京都市国際化推進プラン」はサブタイトルに「多文化が息づくまち」とあります。平成9年に策定した「京都市国際化推進大綱」から10年を経て、グローバル化と新たに居住する外国人の増加などの大きな環境変化に対応するためであると説明しています。内容においても京都に住む4万1千人の外国籍市民(日本籍外国人を除いてほしくない)に対して、コミュニケーション支援、生活支援、多文化共生の地域づくりなど、従来になかった視点を取り入れた意欲的な内容となっています。このプランの策定に当たっては、京都モアネットの顧問も参加し多くの意見を述べたそうです。このプランには京都モアネットの名前こそ出てきませんが、我々の活動を評価するような具体的な取り組み課題が書かれています。「無年金高齢者・障害者特別給付金制度」についても、我々が交渉したとはいえ、市側も進んで全国でもトップクラスの取り組みを行っているように見えます。

「多文化が息づくまち」という言葉の心地よさに、「身の引き締まる思いで、これからも精進します」と応えるべきところですが、どうも釈然としません。このプランは意気込みの割に、具体的な取り組みの方法論が弱く、今後10年間でどの程度の成果が得られるのか疑問を感じずにいられません。我々の活動経験からすると、地域社会での協力があまりにも得難い状況にあるからです。京都モアネットの地道な活動の重要性はますます増すばかりです。望む、望まずに関わらず…。

第3回「外国人福祉委員養成講座」

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアネの設立～

鄭禧淳先生(NPO 京都コリアン生活センターエルファ理事長)

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

田中宏先生(龍谷大学教授)

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉委員の必要性和活動内容について～

南珣賢先生(NPO 京都コリアン生活センターエルファ事務局長)

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

加藤博(龍谷大学短期学部長)

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

谷喜代子先生(グループホーム京都ひまわり園管理責任者)

第6回 障害者に対する生活支援の理解

小森猛先生(京都頤養園管理責任者)

第7回 相談支援活動の心構えについて

叶信二先生(東九条のぞみの園センター長)

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

仲尾宏先生(京都造形芸術大学客員教授)

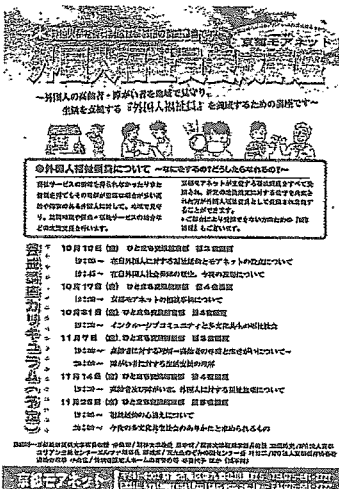
インターネットで外国人福祉員養成講座が受講できます。

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

①養成講座で受講できなかった講義を、このページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などをお書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員登録証をご送付いたします。



外国人福祉委員養成講座

～外国人の福祉・暮らしを支援する～
～外国人福祉委員の養成～

外国人福祉委員とは、外国人の福祉・暮らしを支援するために、外国人福祉委員会の委員として活動する方です。

外国人福祉委員の養成講座は、外国人の福祉・暮らしに関する知識・技能を身につけるための講座です。

外国人福祉委員の養成講座の日程は、以下の通りです。

回次	日	時間	講師
第1回	10月10日	18:00～20:00	鄭禧淳先生(NPO 京都コリアン生活センターエルファ理事長)
第2回	10月17日	18:00～20:00	田中宏先生(龍谷大学教授)
第3回	10月24日	18:00～20:00	南珣賢先生(NPO 京都コリアン生活センターエルファ事務局長)
第4回	10月31日	18:00～20:00	加藤博(龍谷大学短期学部長)
第5回	11月7日	18:00～20:00	谷喜代子先生(グループホーム京都ひまわり園管理責任者)
第6回	11月14日	18:00～20:00	小森猛先生(京都頤養園管理責任者)
第7回	11月21日	18:00～20:00	叶信二先生(東九条のぞみの園センター長)
第8回	11月28日	18:00～20:00	仲尾宏先生(京都造形芸術大学客員教授)

外国人福祉委員の養成講座の申し込みは、以下の通りです。

外国人福祉委員の養成講座の申し込みは、以下の通りです。

外国人福祉委員の養成講座の申し込みは、以下の通りです。

● 市民講演会「地域のふれあい、たすけあい」

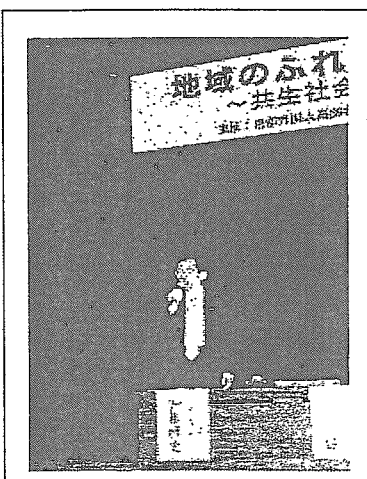
地域のふれあい、たすけあい ～共生社会のネットワーク～をテーマにした講演会が京都モアネットの主催、京都府、京都市の後援で2008年6月14日(土)午後2時、京都市アバンティホールで開かれ、関係者をはじめ在日コリアン、京都市民約120名が参加した。

講師にはロッキード事件当時、東京地検特捜部検事だったさわやか福祉財団理事長の堀田力氏を招いた。

堀田力理事長は「アメリカ滞在から帰国した当初、子供達が日本語を忘れてしゃべれなかった為、いじめにあい登校拒否が続いた。言葉や肌の違い、高齢者等に対する差別がアメリカと比べて根強い事にがぜんとした」と辛かった体験を語り、「日本では、認知症者に対する無理解をはじめ

差別は多い。秘策はない。粘り強くボランティア活動を広げていくしかない」と様々な形で、社会の役に立っている喜びを感じるボランティア精神を広める事を訴えた。

つづいて、京都モアネット共同代表の加藤博史龍谷大学短期学部長教授と京都モアネット顧問の小澤亘立命館大学産業社会学部教授が京都モアネットに対する理解とサポートを呼びかけた。最後に京都市保健福祉局長寿福祉部 壁純一郎部長が祝辞の挨拶の中で、京都モアネットの発展に京都市も積極的に協力する事を約束した。



来賓挨拶をする京都市長寿福祉部 壁純一郎部長

● 第3回京都モアネット総会

市民講座の終了後、直ちに、京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」の第3回総会が開催されました。2007年度活動報告・会計報告・監査報告の審議の後、2008年度活動計画案・収支予算案が検討され、承認されました。特に、3年目の新たな活動として「生活支援活動の在り方」「支援活動ネットワーク構築」をテーマにした研究活動を年間を通じて行うこととし、時代の変化と新たなニーズに応えられる活動を行うための理論的基礎作りに取り組むことが決められました。また、運営委員会の役割を限定的にし、誰でもが運営に参加していただくことができるように事務局体制を見直すこととし、スタッフ会議を新たに設けることにした規約の変更がなされました。さらには、役員の変更も以下の通り承認されました。

【共同代表】

辞任 金基錫(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部京都同胞生活センター副会長)

新任 琴基都(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部京都同胞生活センター会長)

【運営委員】

新任 金秀煥(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部京都同胞生活センター事務局局長)

応援してください、参加してください、会員を募集中です。

個人年会費 1,000円
団体年会費 5,000円
ゆうちょ銀行口座
00990-4-314429

多くの活動資金を必要としています。ぜひ、2口、3口とご協力ください。

● 2008年度の活動(2008年4月～2009年3月)

1. 外国人福祉員の生活支援及び訪問活動

相談件数については、2006年度72件、2007年度220件でしたが、2008年度の実績は高齢者232件、障がい者43件でした。京都府内に在住する外国人、とりわけ特に福祉サービスなどの情報が行き届きにくい高齢者・障害者に対する生活支援活動のため多くの外国人福祉員たちが活動しました。今年度に関しては生活相談はもちろん、地域での見守り・傾聴・安否確認などの活動の強化に取り組みました。ここで78名の外国人福祉員が活動をし、延べ1,500回以上の活動を行いました。生活相談で特に多かったのが年金や医療の問題で、マスコミや新聞を見ながら心配を抱え、しかし適切な情報と支援を受けられない人々が多かったです。また地域での見守り活動では独居の世帯や老老世帯に大変喜ばれ、また福祉委員たちもやりがいを持って取り組みました。

2. 外国人福祉委員養成講座と現任研修など

外国人福祉員養成事業でも今年は30名の外国人福祉員を要請しました。特に今年度は外国人福祉委員養成講座のカリキュラムを圧縮し、多くの人々に参加していただけるような形態をとることを目的に新しい試みを行いました。講座に関しても分散型の単位制とし、9月と11月の間に計8回の講座を夜間に開きました。また講座に参加できない人の為にWEB補習を導入し、年間を通じて外国人福祉員の認定が受けられるような体制をとりましたが、WEBでの受講者はあまり多くなく、宣伝の仕方に課題を残しました。ほかに、外国人福祉委員の原因研修の為に施設実習を行いました。現任研修を定例化させ、ケース検討会議や、過去の相談案件に基づき意見交換会などを行う計画は研究会のほうに軸足を置いたために、一般参加の数がなく次期の課題として残されました。

3. ネットワークの強化

他の外国人支援団体との交流や意見交換を積極的に行い、外国人生活支援ネットワークをより豊かなものにする課題に取り組みました。具体的には「ネットワーク構築の研究」活動の中で各団体の活動内容を知り、現在の課題に対する認識を共有することができました。それにとどまらず、エルファと中国帰国者支援グループがヘルパーの養成に取り組む新しい芽も生まれてきました。京都の外国人生活支援のニーズは増加しており、ネットワーク機構の構築が今後ますます緊急性と重要性を帯びてきています。

4. 外国人生活支援に対する啓発事業

6月14日にさわやか財団の堀田つとむ先生をお招きし、市民講演会を行い120名以上の方々に参加していただき地域ボランティア、外国人生活支援の重要性を認識してもらいました。またモアネットのホームページを立ち上げました。案内のパンフも増刷し市民団体や行政、地域での配布に努力しました。

(次のページに続く)

対象者	性別	男	71
		女	161
		合 計	232
	国籍	韓国・朝鮮	218
		中国	3
		アメリカ	3
		フィリピン	0
		タイ	2
		その他アジア	2
		イギリス	0
		ブラジル	0
		その他	4
		合 計	232
相談経路	本人		74
	家族		93
	民生委員・老人福祉員		0
	ケアマネジャー、ヘルパー		21
	福祉事務所等行政		10
	病院・医院		11
	その他		30
	合 計		232
対応方法	外国人福祉委員の訪問		154
	電話相談		57
	来所相談		6
	その他		13
		合 計	232

京都モアネット役員

【顧問】

小澤亘(立命館大学教授)
 金有作(在日本大韓民国民団京都府地方本部団長)
 金学福(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)
 田中宏(龍谷大学教授)
 鄭禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ
 理事長)
 仲尾宏(京都造形芸術大学客員教授・在日外国人「
 障害者」の年金訴訟を支える会共同代表)
 水野直樹(京都大学教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学教授)
 金周萬(在日本大韓民国民団京都府地方本部福祉
 事業推進委員会委員長)
 琴基都(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部京都同
 胞生活センター会長)
 朴錫勇(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ・札の
 辻診療所副所長)

【運営委員】

金秀煥(朝鮮総聯京都府本部・京都同胞生活センタ
 ー事務局長)
 金洋子(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ
 理事)
 許光守(韓国民団京都本部民生部長)
 南珣賢(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ
 事務局長)

〒601-8007 京都市南区東九条北河原町5
 京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」
 TEL075-681-2721
 FAX075-681-2722
 Email info@kyoto-more.net
<http://www.kyoto-more.net/index.htm>

(前のページより続く)

福祉事務所	14
区役所掲示板等	14
区役所外国人登録窓口等	14
地域包括支援センター	60
居宅介護事業者	360
大阪入国管理局京都出張所	1
京都市社会福祉協議会	20
うち老人福祉センター	17
京都モアネット関係	100
	583

5. 行政や医療、福祉機関との連携協働体制強化

行政や福祉事務所に対して積極的に働きかけ協働できる体制を整えるため、外国籍市民の多く住む南区にモデルを作るため南区役所との交渉を持ちました。京都市の広報掲示板の利用、民生児童委員への講習の機会と協力体制、福祉事務所への相談時の協力などを課題に数回の交渉を持ちましたが、民生児童委員へのポスター配布をしていただけた成果しか得られませんでした。現在まで民生児童委員からの相談事例はなく、はっきりと地域における福祉ネットワークの一環として位置付けていただくよう継続した働きかけを続ける必要があります。

6. 外国人支援のあり方に対する研究

韓哲文化財団の助成金を得て、年間を通じて取り組みました。夏ごろには報告集を発行しますので、ご希望の方は事務局にご連絡ください。

外国人生活支援の在り方について

「東松ノ木市営住宅における在日韓国朝鮮の方への生活支援」—村木美都子—
 「在日フィリピン人とカトリック教会」—ニコール・コマファイ—
 「ネットワーク・モアの活動と課題」—牧田幸文—
 「活動事例から浮かび上がる課題」—南珣賢—
 「在日朝鮮人女性の教育と福祉の在り方」—山根実紀—
 「日常診療から経験した在日朝鮮人の特殊な事例と課題」—朴錫勇—
 「ゼロ番地(松ノ木町40番地)聞き取り調査」(高齢者に関わる場面での通訳をめぐって)「モアネットの目指すもの」—加藤博史

モアネットとネットワーク形成

「YWCA-APTから学ぶ」 小澤 亘
 「YWCA-APTの現況」 岡 佑里子
 「きょうと外国人支援ネットワークについて」飯田奈美子
 「中国帰国者支援の現状と課題について」 飯田奈美子
 「中国帰国者支援とネットワーク形成」 南 珣賢
 「外国人福祉委員アンケートから見えるもの」金 秀煥